




整理番号	33	作成日	平成 18 年 6 月 20 日
事業名	音声誘導システム設置事業		
所属名	土木部 保全課 設計係	電話番号	(03) 5662-8439 (直通)

事業の目的・概要・対象者等	《事業の目的及び概要》	《事業の開始年度》	平成10年度
	<p>視覚障害者が安心して暮らせる環境整備の一環として、公共交通機関及び主要区民施設利用に際しての利便性を向上させるため「音声誘導装置」を設置しています。 設置にあたっては、視覚障害者団体と意見交換を行い、要望の多い箇所から順次進めています。 今後は、高齢者への活用も図っていきます。</p>		
	【平成18年6月1日現在】		
	対象者	1,339人	区内の1級から6級の視覚障害認定者数

活動指標	活動指標	[音声誘導装置]	[設置例]	[小型発信機]
	音声誘導装置の設置数			
	17年度 11か所 (16年度) 12か所			

成果・目標指標	成果・目標指標	設置要望（必要）箇所への対応割合	成果・目標指標	視覚障害者の小型発信機所有者割合
	17年 81.0%	20年度目標 100%	17年度 35.0%	20年度目標 50%
成果・目標指標	平成17年度末で91か所設置済みです。このほか、21か所の要望があります。		音声誘導装置設置カ所が増えたことをPRし、小型発信機の所有者を増やすことにより、音声誘導装置の利用の促進をはかります。	

経費の概要	17年度事業実施経費	11,238千円	経費の説明						
	内訳	設置1か所あたり 1,021,636円です。							
	【人件費と担当職員数】	<table border="1"> <tr> <td>ア 常勤職員</td> <td>0.2人</td> </tr> <tr> <td>イ 非常勤職員</td> <td>0.0人</td> </tr> <tr> <td>ウ 臨時職員</td> <td>0.0人</td> </tr> </table>	ア 常勤職員	0.2人	イ 非常勤職員	0.0人	ウ 臨時職員	0.0人	主な経費は、音声誘導装置設置工事費です。 音声誘導装置設置 11か所 9,240千円 また、事業実施経費の財源うち、設置費の約5割が東京都からの補助金で賄われています。
ア 常勤職員	0.2人								
イ 非常勤職員	0.0人								
ウ 臨時職員	0.0人								
	1,998千円								

その他	《実施の根拠となる法令等》	・東京都福祉のまちづくり条例
	《民間委託やボランティアなどとの協働の状況》	・NPO法人視覚障害者福祉協会との意見交換会(年1回実施)
	《その他》	

平成18年度 江戸川区「行政評価」内部評価シート

整理番号	33	事業名	音声誘導システム設置事業
所属名		土木部 保全課 設計係	

所管課長評価

そう思う ←→ そう思わない

評価項目	評点	5	4	3	2	1	備考
【必要性】							
1	公費を投じて実施すべき事業である。	5					
2	他の事業と整理、統合する可能性がある。			3			
【有効性】							
3	目的を果たすために有効な事業である。		4				
4	成果が上がっている。		4				
【公平性】							
5	対象者や実施回数等は適切である。			3			
6	受益者負担の額は適切である。						*非該当
【民間活力の活用】 既に実施している場合は備考欄に表記し、評点は「1」とする。							
7	ボランティアやNPOの活用の可能性がある。						*非該当
8	民間事業者への委託等の可能性がある。			3			
【効率性】							
9	効率的に実施するために、工夫、改善等の可能性がある。			3			
10	経費を削減できる可能性がある。					1	

所管部長の意見等

視覚障害者の安全性・利便性を向上させるさせる上で、効果的な事業である。また、音声誘導装置を利用されている方々にも大変よろこばれている。
 以上の理由にからも、事業を継続して進めることが妥当である。今後は、音声誘導装置を設置した効果を最大限発揮できるよう小型発信機の所有者数の増加を図ることが必要である。

平成18年度 江戸川区「行政評価」外部評価シート

整理番号	33	事業名	音声誘導システム設置事業
------	----	-----	--------------

所属名	土木部 保全課 設計係
-----	-------------

外部評価委員評価

そう思う ←→ そう思わない

評価項目	評点	5	4	3	2	1	備考
【必要性】							
1	公費を投じて実施すべき事業である。	5					
2	他の事業と整理、統合する可能性がある。			3			
【有効性】							
3	目的を果たすために有効な事業である。		4				
4	成果が上がっている。		4				
【公平性】							
5	対象者や実施回数等は適切である。			3			
6	受益者負担の額は適切である。						*非該当
【民間活力の活用】 既に実施している場合は備考欄に表記し、評点は「1」とする。							
7	ボランティアやNPOの活用の可能性がある。						*非該当
8	民間事業者への委託等の可能性がある。			3			
【効率性】							
9	効率的に実施するために、工夫、改善等の可能性がある。			3			
10	経費を削減できる可能性がある。			3			

外部評価委員の意見

効果的に設置できるよう、視覚障害者団体との協議の場を増やすなど、きめ細かく意見を聞くことが必要である。

一般的に、音声誘導システムの機器がどのようなものかイメージできないので、分析シートには写真を載せてほしい。

所有者割合が35%なのは、この機器が設置されていることを知らないのではないか。

* 評価欄の数値は、評価者数です。